

平成18年度第3回 全学FD アンケートのまとめ

回収 48 名分（回収率：41.0%）
（参加者 117 名：総長等を除く）

1) シラバスの『試験・成績評価等』項目において、学生への説明として留意するのは、どのような事項であるとお考えですか。

淵田先生のパワーポイント（資料1）の34枚目に良いシラバスの例が示されているが、これで27枚目の「学生から見た問題点」の1つ目に対する回答になっているのか。このような記述でよければ対応は割りとやりやすいと思われるが……。例えば、「～」ができていればA、「～」までできていればB、などということに記載することはほとんど不可能と思われるし、仮に書いたとしても、その通りに評価を行うことは大変難しいと思われる。 / 評価方法、基準を明確にすることで公平性が確実に保たれるようにする。 / 学修目標と対応した成績の評価基準の明確化 / 到達目標を明確にして学生の勉学の指針を示す。 / 具体性に欠ける表現を用いない事、何のどういふ事で評価点を決定するという記載が必要 / ある程度はあらかじめ説明できるが、実際は試験を行なってから得点状況を見て決めるのが通常であるので、具体的数値はあらかじめは困難である。 / 「試験・成績評価」を何故こうしたのか」を学生に説明できること。学生の勉学意欲、向上心を削がない事。クラス間での公平性。 / 評点の内訳と試験の出題傾向（内容） / 具体的な配点は必須であると思う。 / 到達目標を明示した上で、何を何%評価するかを明確にすること。 / 成績の要素について%で示すことは必要。しかし、それはある程度を目安としての有用であって、評価方法があまり具体的になりすぎる必要はない。 / 配分、応用力の程度、期末試験受験の可否、出席不足者の取扱い、課題提出期限 / ・習得すべき項目内容（到達目標） ・成績評価等の割合（レポート〇%、試験〇%・・・） ・Q and Aの方法（オフィス・アワー） / ・講義内容について、具体的に指針となりうるように記載する。 ・講義内容について修学に必要な項目を必ず記載するなどいい。 / 期末試験で評価を行なう場合、期末試験の難易度が成績に大きく影響すると考える。したがって試験の内容についても何らかの形で示す必要があるのではないかと。 / フェアであること。 / ・評価方法を学生にとって分かりやすい形で具体的に説明する：①-何を②-どのように③-どんな基準で評価するか。できれば数値化して示す。 ・共通科目においては、評価についての担当者間のコンセンサス必要。 / 出席点はつけるべきか？出席店の配分は？ / 評価基準の明確化・評価項目の明確化 / 評価方法の明確化、分野によってはレポートを重視しているが、インターネットの発達している現在、学生の倫理だけでは問題となるので、試験にレポート形式の問題を出題することも大切なのでは（平常のレポートは別として） / ・学生の立場に立つのが基本。何をどのような基準でやるかが大事。数値かもあり ・共通科目においては担当者間での共通感が必要。かつ別に教員個人授業の割合も必要 ・テストの出来ばえで評価を決めることが多い。事後の説明責任がある。 ・相対評価はむかない。 / GPAの活用法が決まっていないので、学生にとってはそれがどう自分に関わってくるのか？よく分からないと考えます。ただ、シラバスに書いてある目標をクリアすれば「A」なのか？合格なのか？は整理すべきと考えます。私は目標をクリアすれば、A評価のつもりで作成している。 / 数値目標やハードル等で機械的に決められるのであろうか？ / 出席点・レポート等の評価を〇〇%、筆記試験の評価を〇〇%と明記する必要がある（現在もやっている） / 数値化は必要 / 授業形態によってGPAが正

規分布に近い形で評価するのか、絶対評価で評価するのか、明示する必要があると思う。特に人文系の講義・演習の場合、少人数であったり、意見の多様性を許容する場合、画一化を避けた上でいかに学生の学力を正当に評価するのか。という点に留意すべきだと思われる。 / *GPA自体を周知のこととして前提にすることなく、個々のシラバスの中に入るさいくらいに、説明を入れる。Aは難点で、Bは何点であるということ。 *A評価はどんな点数の場合に出されるのか。そして、その点数はどのような相対評価(絶対評価)の中で、算定されるのかを説明すべき。 / 合格(D評点)に到達するための基準の明確化。合格に達している答案例やレポート例の提示。 / 成績評価基準を細かく書きすぎると、実際の評価を行う際に問題が出てくるとと思われる。 / 点数の配分・評価方法を明記する。資料3-52頁目の記入例は”主観に負う””どのような内容~でも”等、不適切な表現が多い。個人的には毎回小テストの返却ないし模範解答を行い、理解を深めるのが望ましい。 / シラバスを学生がぜんぜん呼んでいない現実、教科書を見れば何を学ぶかが理解できる現実を考えると、シラバスは不用(要)である。成績評価についてもどの教科についても類似しているので教官をわずらわす無用の事務労力である。 / 成績評価基準を明確に提示するのは当然であるが、学部・学科や科目の種類によって多様があるため、必ずしも「出席点〇〇%、レポート〇〇%・・・」と言う書き方に統一する必要はない。 / 「試験・成績表」について、きちんと数値化して評価するということ、そして、その数値の持つ意味に対して、九州大学の全教員が社会及び学生に対して責任をもって保証するということを明示すること。この点に関しては、この制度を導入しようとする執行部の責任のある態度と組織的対応を望む。 / 評点法、評価基準の詳細な説明。 / GPAの利用法(何に、どのように利用するのかを明示する)。GPAの算出基準・方法はシラバスに明記されていることを周知させる。 / ①試験の形態(記述 or マーク)の明記、配点などの明記。②60点をとるために必要な努力(出席点+試験の点+レポートなど)、90点以上とるために必要な努力(出題する参考教科書を明確にする)

2) 成績評価基準の策定が必要であるのは、どのような科目ないしは授業だとお考えですか。

同一の科目を複数の先生が担当している科目(数学や英語など) / コース分けや何らかの競争的項目に関係する科目で複数クラスに分けて、別々の教員が講義を担当するもの / 正解を〇×で評価することが難しい科目 / 英語トピックを利用 / 同じ講義名で複数の教員がこの講義をやっている課目が一番必要に迫られていると思う / 到達目標や目的とされる内容を持ち、成績をすぐれて定量的に表わすことができる科目。大学での多くの勉学内容は実は不定量であり、GPA制度がもつ諸問題は解決が困難であろう。 / ある程度の教員間のバラツキはしかたがないと思うが、基礎科学科目などでは基準を設け、震度・試験問題など共通にする事により可能かと思う。 / 1つの科目が複数の教官で複数のクラスに分かれる時。似たような選択科目の間。 / 同じ科目で多クラスで並列に開講される科目。 / 通常の講義科目および演習科目 / 同一科目を複数クラスで行なう場合は必須である。特に学生の意思とは関係なく、クラス分けされるものは、ある程度教員間でのコンセンサスウを取るべきだ。 / 同一科目を複数のクラスに分けて、複数の教員が担当する場合、ただし、学生に選択の権利がある場合には、その限りではない。 / 全学教育科目を含めた基礎必修科目 / 語学・理数系。 留学条件や外部に別の評価法がある科目(大学のレベルが評価されることになる)。 すぐ後にその科目履者を前提とした科目が組まれている場合 / ・同一科目を複数教員で担当しているケース / ・2単位認定課目と1単位認定課目のGPAは区別して考えるべきである。 ・全学教育では必要だが、専攻教育科目では必要ない / GPAの活用方法によって変わると考える。また必修科目では特に留意すべき。 / 全学教育の全て(特別な事情のある科目を除く) / 基本的にはすべての科目、授業に評価基準は必要と考える。問題は、科目あ

るいは授業内容の性質、あり方によって、その策定の方法、あり方が自ずと異なってくる点にある。 / 同一科目名の講義で複数の教員で担当している科目 / 実験・実習は出席点を重視する(60%以上)、一方講義は試験やレポートの評価が重要であろう。 / 基本的に号否定でない科目は全て画一化する必要はない。同じ科目に対しては教員間で調整を行なって同一の基準で評価すべき / 全学教育が今後全教員によって運営されるため、成績基準についての検討が必要と思われる。 / 評価基準はどの科目でも必要。ただし、テストの出来ばえで評価が多いので、開講前に評価基準が決まるのは講義の水準の低さを意味する。講義の成果として、試験もあるだろうから、試験結果の評価基準の説明責任も明示すべきだろう。 / 基本的に講義科目は全て必修だと考えます。 / あるのだろうか？語学とか一般教養くらいでは？ / 同じ教科目を複数の教員が担当し、評価する場合、評価基準の策定は必須と考える / すべての科目 / 数百人規模の全学教育、数十人の専門教育、少人数演習でそれぞれ基準は異なるべきもので、評価基準を策定するにはその点を十分に考慮して頂きたい。 / 特に同一科目を多人数の教師が担当する場合。 / 同一科目名の成績評価基準をなるべく統一する。 / 基礎科学科目など複数の教員が同一科目を同じ学期に担当しているとき、基準なりが必要であろう。 / 実習や一部の演習を除いて、基本的に全ての科目に必要 / 人間を評価する考え方を受けるけるもので、GPAを策定するのには賛成しない。 / 同一科目を複数教員で担当する授業。 / 成績評価は、学生の行動目標(より具体的な目標)の設定が必要であるが、それによって評価基準のすり合わせにもつながることになる。例：資料3-5「GPAに言及・・・記入例」にしても、学修目標だけでは評価につながらない。授業計画4月10日を例にすると、「心理学という学問と研究」ではなく、この授業から学生は何ができればならないかを記載し、それが評価の対象になる。 / 異なる担当教員による同一科目 / 学生がいくつかのクラスに振り分けられるような科目。複数の教員によるリレー方式の科目。 / 複数の教員が担当する科目・授業。担当する教員のちがいによって同じ名称・内容の科目でも評点に大きな差がある。 / 多人数での授業科目、同一科目が複数の教員によって開設される場合 / 進学・卒業するするのに必要な必修科目だけで良いと思う。上位の学生は成績評価基準を設けなくとも十分に学習しているが、下位の学生は単位を取得するための必要最低限の努力を明確にした方がよい。

3) GPA評点「A」を意義付ける方策についての提言をお聞かせ下さい。

質問の意味がわかりません / 教員や年度の違いによって、評価の付け方に揺れがないようにする。 / 名前を公表して歴代の優秀者を残す。 / 大学と大学院を完全に分離し、大学院入学時に得点評価する / 特に優秀で積極的である学生 / 点数の合計が90点以上なだけ / 特に無し。急いで考える必要なし。 / (ダブルスタンダードになってしまうのだが) 学部や教育科目に応じた重みの設定 / 『A評価は〇〇できる者に対する評価である』という記述と、具体的な成績評価基準とは、矛盾が生じる可能性がある。出席点やテスト等の成績評価基準上は90点を取得しても、『〇〇できる者』とみなされない場合には、Aが与えられないのか？Aを意義づけるのであれば、『A評価を取得した者は〇〇できる者とみなすことが出来る』としか、言えないのではないのか？ / GPAを導入した時点で、「A」それ自体が大きな意義を持つ。いずれにせよ、GPAを導入する限り、それが「利用」されないはずがないから。 / 卒業時の評価に用いる。 / A評価の割合(例えば20%以下)のガイドラインを定める。履習科目数(一学期あたりの履習単位)の上限を設定し、各履習科目の課題、および達成内容を積極的に評価する。 / Aは特に収集とする位置づけ一意欲の高い学生が目標とする雰囲気づくり。同時にCでも劣等感を持たせない姿勢。ただし、Cでよいとする者が多くなりすぎるとよくない。 / (A)を付けるかどうかの成績評価基準についてFD委員会で指針を示すべきである。(たとえば(A)評価は全員の10~20%以内にするとか)。しか

し統一的な基準評価はたとえば全学の大学におけるGPA制度の運用のための基準を設ける必要がある（つまり大学間のGPA pointの差をなくす努力をするべきである） / 単純に暮らすの上位5%とすべきだ。履修は学生に理解してもらいやすいから。あるいは、複数のクラスにまたがる科目については、共通のテストを担当者以外の者が採点すべきだ。 / 成績は相対評価でなくても良い。「A」が沢山でもよい。 / 学生の学習意欲を高めるための動機づけにGPAを使うのであれば、GPA評点によるランクづけのみならず、「A」評価の数による評価もあってもよい（優秀表彰など） / 大学院への進学、専門職への就職に関する資料となる。この場合、質に関する共通理解が必要。 / さて？ / GPAの活用法が決まらなければ、学生はAを取る意義を感じられないのでは？と考えます。 / 評点「A」は当該科目について十分理解していることを示すものであり、特に意義づける方策はない / 「A」をとった学生の満足度で充分である。それ以上に、大学入試で、大学の格差が位置づけられているのに、GPAは必要か / やはりGPAを導入して学生の学修意欲云々を言うのであれば、2.0以下は卒業不可（あるいは退学）として中退者が一時的に大量に出るのも、腹をくくってやるべきではないのか？そうでなければGPAを導入する意味は皆無でしょう。 / 発展的な学習目標（より高度な内容）を設定し、それを到達しているかで判断する。 / 絶対評価と言いながら、相対評価を加味せざるを得ない。GPA制度を機能させることは、相対評価を前面に押し出すことである。 / 講義の初回に、A評点者の（無記名で）具体例を紹介することで、学生への動機づけ、目標を明確にする。関連する教員で、講義内容、評価方法について共通認識を確立しておく。 / 従来の「A」は80~100点であったが、GPA制度では90~100点となるため、学生にとってはよりグレードの高いものになると思われる。 / 成績評価は、学生の行動目標（より具体的な目標）の設定が必要であるが、それによって評価基準のすり合わせにもつながることになる。例：資料3-5「GPAに言及・・・記入例」にしても、学修目標だけでは評価につながらない。授業計画4月10日を例にすると、「心理学という学問と研究」ではなく、この授業から学生は何ができればならないかを記載し、それが評価の対象になる。 / 九州大学が「A」をきちんとした基準に則って出しているということを社会に対してきちんとアピールできるかどうか。（逆に言えば、単位の安売りはしないということ）GPA制度を導入した関係者の力量と責任が問われる。 / 講義内容を越えたあるいは別視点の展開。即ち教員の視点に意見・疑問を投げかける程度の思考。 / 各教員によって評価基準が一定ではありえないので、「A」を意義付けること事態にしみがあるとは思われない。 / 学生が自分の位置を把握できるので非常にいい策だと思う。ただ、「A」の全体比率は全ての科目で統一しておいた方が（例えば上位10%以内とかに限定する）、奨学金や進振りなどの評価に使いやすくなると思う。

4) GPA評点の低い学生への修学指導の方策についての提言をお聞かせ下さい。

修学指導・・・学生にとってGPAを向上させるメリットは何なのか、周知してほしい。「不可」になった科目で、最履修して「可」以上をとったときに過去の「不可」についてはGPA算定にカウントしないようにした方が、学生の再チャレンジへのモチベーションを高めやすい（修学指導しやすい） / 修学指導を行なう機会を設け、学生に周知させること。 / 学生ごとに担当の指導教員を割り当て、定期的に面接指導を行なう。 / 先生を変えて同じ科目を学ばせる。 / 現在は名前だけになってしまっているクラス担任が当該学生を個人的に対話する機会をつくり（定期的に）、何が問題でそうなっているのかについて原因を把握するところからはじめる必要があると思う / 本当の意味での少人数制度を根付かせること。 / 継続的な修学指導をどこが行なうのか。早急な議論すべきと思います。 / なぜ評価が低かったのかについて（試験のどの問題ができなかったのか、レポートが評価に含まれるのであればレポートの点数がどの程度だったのか等）を明

らかにする。どのような換算によって総合評価の点数が出されたのかを学生が知ることができるようにする。 / 退学勧告を視野に入れた修学相談システムの模索。 / 他大学への転学制度の導入 / 再履修科目が増えるほど、GPA の分母が大きくなるため、平均値である GPA を上昇させることが困難になっていく問題がある。「F」評価の扱い次第では、退学者が増えるのではないだろうか。 / GPA の低さそれ自体が問題とは思わないが、毎学期教員が面談するだけでも、学生の修学意欲は改善するだろう。 / ・再履習による評点 up のチャンスを広く認めるべきである（4年次での再履習はふつうに評価するとか） ⇒卒業要件への組み込みも可となる。 ・一度失敗すると敗者復活はできない制度なので本格的導入には時間をかけた議論が望ましい。 / 成績が悪い学生に対しては、オフィスアワー等の面談によって各授業担当者のレベルで対応すべき問題である。 / 劣等感を持たせない配慮。アベレージだけでなく、個々の科目の成績をみた丁寧なカウンセリング / ・成績の悪い学生に対しては、原因を修学指導により解析して、個別に指導するしかないのではなかろうか。 / 担任などによる定期的な修学指導。保護者への定期的な成績報告。 / 現在のバラバラな成績評価を是正した後でなければ、GPA 導入は大きな混乱をまねくのではないだろうか。 / 誰が指導するのか（精神的・心理的問題を抱える学生、不登校の学生以外に九大生の中でそれほど差があるか？） / 早い時期から留学生への指導が必要となる。学年が進行する中での学生の評価がよく見れなくなるのでは（総合の点数であるため） / GPA の利点としては、問題の抱えた学生の早期発見であろう。学部での学生委員会等が速やかに対応する。その結果しだいで、いくつかの方法が出てこよう。 / 本来、修学指導は専門の方（プロフェッショナル）が行なうべきと考えます。教員がやれることと言えば、学期ごとの GPA の変化をモニタリングし、適切なアドバイスをを行なうことだと考えます。 / GPA 評点の低い学生へはクラス担任制を行い、担任がきめ細かく対応するしかない / 修学指導に不用。学生が自ら判断すべき / 文学部に於いては2年次より各講座に配属させられることになるので、各講座の教員による複数指導体制をより有効に活用していくべきであろうと思われる。 / 所属している学部・学科・コースに不適應を起こしている可能性があるため、本人の意欲や興味を有する学問領域への転学部・学科の検討。 / GPA を見て修学指導をする必要はないと思われる。成績の悪い学生は点数を見ればわかる。 / オフィスアワーはもちろん、もっと教員に直接に話し、学ぶことが大切ではと考えます。 / デメリットを良く説明する。 / 成績が万能ではない。考え方が大切である。科学的思考を大事にする指導を評価したい。 / 「GPA 評点の低い」という定義をまず明確にすべきである。具体的に、難点いかが「低い」ということになるのか。これは部局によっても異なるだろうし、従来の「平均点」や「習得単位数」のデータとの相関関係の分析が必要である。 / 関連委員会の委員が就学意欲を高めるようアドバイスをする。 / GPA 評点の低い原因を精査し、問題点（成績が悪い、履修のやり方が悪いなど）を本人に周知させる。また、問題点を本人に自覚させる目的で、GPA 評点（成績）を保護者へも通知する。 / GPA は低くても広く浅く学習している場合や、専門以外の科目積極的にチャレンジしている場合もあるはずなので、内容をよく見る必要がある。 / 私大で行なっているように、親に成績表を送る。成績（テスト結果）の開示、「不可」をとった科目の担当教官との面談を必須とする。

5) その他、GPA 制度やシラバス等について、意見がありましたらお聞かせ下さい。

学科のシラバスなど、19年度のものほとんどできあがった今の段階で、なぜこのテーマを取り扱うのか疑問。行う時期が遅すぎる。分科会のテーマについて、何を話し合えばいいのかよく分からなかった（伝わっていなかった）。座長も理解されていないようでした。座長は分科会で出た意見をちゃんとすいあげてまとめてほしい。自分だけの意見は半分近くもりこむのはやめてほしい。

い。 / 各教員への周知方法はどのようになりますか？GPA のほかにも新たな制度が導入される際の周知方法が十分ではないような気がします。 / アホな先生を排除できるなら素晴らしい制度だ
と思う。 / GPA 導入の絶対前提は、科目間（教員間 9 の評価の公平性である。如何に困難であるか
らといえどもこれなしでは、学生の信頼を失い、モラルの崩壊をもたらすおそれありと考える。 /
学生に限らず、人間がもっとも嫌い、やる気を失うのが、平等性が保たれていないことである
と思う。GPA によって数字がはっきり算出され、それがさまざまな要件に使われようとしている。
導入によってより良い教育の成果を上げるためには、教員の責任は大変重く、失敗すると多くの
学生のやる気を損なうことになる。条件を等しくするための多大の努力が大学側に要求される。
 / 進学・卒業に全学的な数値的適用しないのであれば、GPA は学生にとって意義は殆どなくなる。
 / GPA とそ打つ行要件は別に考えてほしい / 導入するなら、なるべくいいかたちにできるように
すべきでしょう。 / GPA を卒業要件（2.0 以上等）とすることには反対である。 / GPA が平均
点とはどう違う概念なのか、はっきり認識したい。 / 成績管理システム（誰が個々の学生の
成績を把握し、修学指導するのか）の具体例がイメージできない。大学教員が大学教員を考
える良い機会となったと思うが、GPA 制度を良くも悪くもするのは、これから。特に、事
務的な問題で、これはできないと云うのは、避けるべき。 / 成績を 5 段階程度にグ
レーディングすると無視されるところが出ると思う。「79 点 vs 80 点」の 1 点と” Σ 素点（100 点満点のもの） \times 単位/ Σ 単位” で評価した方が
良いのではないだろうか。 / ・19 年度のシラバスを作成する前に、今回の全学 FD を実施
すべきだった。 ・GPA を卒業要件にすべきではない。少数の科目しか受講せず、それで「A」
をとって GPA が高くなる学生が悪いとは言わないが、多くの科目を履修して幅広い知識を得る
ことも重要であり、結果として「B」や「C」や「D」が増えて GPA が下がっても（例えば
GPA が 1.8 でも）それはそれで結構だと思う。 / ①成績の入力画面で、A~D・F 入力後、
すぐに評価をした学生全体の平均 GP が自動計算されて、例えば、2.3 とか 1.9 とか出
てくると、最終提出前に調整ができていいと思います。プログラム作成時にご検討下さい。
 ②教員が担当科目で、どのような分布で成績を出し、科目の GP の値はいくつかにつ
いて、データを学部 FD or 教務教員にフィードバックしてほしい。 以上①②は、科目
間に極端な評価のバラツキが生じないための措置としてお願いしたい。 / GPA 制度の
核心は、学生の成績の点数化である。成績の公平性に重点があるのではなく、大学での
学業が点数化されることである。 / 「出席」についての扱いをどうしたらよいのか？
例えば、出席 30%とした場合、学生は単位習得のために、定期試験等で残り 30%分の
点数を取ればよい、と考える傾向がある。このように、当該科目の習熟度に「出席」を
入れるのは何か釈然としない。 / 今回の FD で GPA の色々な問題点を明らかにすることが
できて有意義でした。 / 1) シラバスは学生が見ることが大切（現状では、ほとん
ど学生が見ていない） 2) GPA 制度の導入によって、学生が学問よりも成績に
ナーバスになっていくのではないかと？ 3) GPA の平均点は必要か？（まんべんなく
良い点数を取る学生が良いのか、特化した分野の成績を評価するのか） 大学は
共通・画一化する物ではなく、個性を伸ばす教養が必要ではないか。 / GPA 評点
ばかりが優先されると、必要最低限の科目に対して好成绩をとることが目的となっ
てしまう懸念がある。 / 全国の GPA 制度実施校における問題点を情報として提示して
いただきたい。 / GPA : 相対評価の方向にむかうと学生の意欲が低下するので好ま
しくない。あくまで絶対評価を維持すべきだ。しかし、同じ科目・異なる教員の場合
（シラバスも同様だが）基準はきちり統一したほうがいい。 シラバス : シラバス
を厳密化することによって大学の講義が学問研究から離れていく（こういうなげ
きは古い発想だろうが） / やはり、GPA の活用法次第だと考えます。全学的な
活用法とともに部局における活用法の検討が必要だと考えます。GPA の信頼度を
上げるには、評価基準の明確化は不可欠ですが・・・。 / やはり反対。数値目標、
競争原理は万

能ではないと思う。 / なし / 学生の自主性を助けるGPA、シラバスにすべき。 / 文学部では専門分野決定の際に全学教育での習得単位の平均点を素点で算出しており、GPAを導入すると例えば80点と89点が同等に扱われる事になると、学生間で不公平感が出てくるのではないかと危惧している。GPA制度自体に関しては、制度に支配される形で画一化・平準化を目指すのではなく、学や意見・考え方などの多様性を完全に保障した上で上手くその制度をそれに適用する事をお願いしたい。 / 学生の授業に対するクレーム（苦情）受付窓口の設置 / GPA制度の導入とシラバスの充実は別物だ。それらをいっしょに議論しているため議論が収束しない。（本日の議論が表面的になった気がする） / GPANお教値が一人歩きするのがこわい。 / 学生の成績が学期ごとに統一基準によって出されることは、学生にとっても教員にとってもさまざまなメリットがある。その反面、課題・問題点も多いと思われるので、部局の意見もよく汲み上げて、慎重な議論を行なっていただきたい。 / 教員への開示時期・方法はどうなるのか。個人情報との関係に留意知る必要がある。 / 全学教育における試行実態のデータと評価分析結果を見せて欲しい。 / 初年度の結果をフィードバックし、次年度以降の専任教育への展開に生かせる対応を、来年度の全学FDに対して要望。 / まず、GPA制度を何にどの様に利用するのかを学生・教員に周知を徹底する。GPA評点が卒業認定や大学院進学のための推薦基準、奨学金推薦、返還免除推薦などへ利用される可能性が考えられる。これらを明示すれば学生は各科目のGPA算出（評点の算出）の方法へ関心が高まり、シラバスに目を通すようになる（現状ではほとんどの学生が目を通していない）。教員は学生のシラバスに対する注目度が高まれば、GPA評価の算出基準のかき方に注意をはらうようになる（他の教員の算出方法にも注意をはらうようになる） / 成績評価基準を具体化することで、いわゆる「下駄はかせ」ができなくなるのではないのでしょうか？特に到達目標に達していない学生に単位を与えることで「契約違反」になってしまうのではないかと？GPA制度の意味が学生にきちんと伝わるよう記載すべきである（特に今までの既存の制度との対応）